

荒川の自然とふれあう ～ 夏休み親子ふれあい学習会開催！

夏休みを利用して子供たちに荒川の自然に親しんでもらう「夏休み親子ふれあい学習会」が、去る8月19日に水林自然林公園で行われました。

夏休み学習会は、当初「星座観察コース」「動植物観察コース」「生物・水防学習コース」の3つのコースが用意されていましたが、18日に予定されていた「星座観察コース」は天候に恵まれず残念ながら中止となってしまいました。しかし、翌19日は晴天に恵まれ、30人の親子に参加いただいて、みんなで荒川の自然や水防について学びました。

動植物観察コースでは、講師の三田村敏正先生が子供たちに虫の捕まえ方を教えると、子供たちは一目散にかけ出し、バッタやテントウムシを追いかけて野原を駆け回っていました。また、水防学習コースでは、砂を盛って水を流し荒川のミニチュア版をつくり、水の流れ方を観察しました。子供たちは、思い思いに水の流れを石や小枝でせき止めたり、流れの方向を変えたりして、楽しみながら川のしくみを学んでいました。参加してくれた子供たちは、実際に虫を追いかけて、水の流れを変えてみたりすることで、自然の大切さや水の力の強さを肌で体験していました。FANは、こうした体験を通じて荒川の大切さや尊さを子供たちに学んでもらうとともに、皆さんに「ふるさとの川」での楽しい思い出をつくってもらいたいと思っています。



コラムFAN vol.2～ 川の風景つれづれ

土木的な施設と名所とは、一見似つかわしくない取り合わせだが、実はそうでもないようだ。歴史を遡れば、木曾三川の締切堤防に残る千本松原、富士川（釜無川）の信玄堤など、歴史的な土木事業の跡が名所となっているところは多い。

「阿武隈川平成の大改修」でみれば、さしずめ御倉地区（旧日銀支店長役宅前）といったところだろうか。

ところで、川につくられる堤防や護岸、水門などの施設は、道路などの土木施設と随分と性格を異にしている。何故なら、前者は洪水という非常時に効果を発揮する施設、後者は日常的に利用し、その効用を享受することができる施設であるからだ。しかし、いくら非常時に活躍する施設だからといって、我々が日常目にす

る風景として河川の施設は存在する。そこが、川の風景を考える際の重要なポイントのひとつだ。その場所が重要な水防上の要所ならなおのことである。普段から、市民の目が向けられ、利用されることが、治水上重要な場所に対する市民の理解に結びつくからだ。だからこそ、そのような場所は名所としてつくられてきた。徳川吉宗が墨堤（隅田川の堤防）に桜を植えたのもそうであったように。阿武隈川と荒川の合流部は、そんな場所のひとつである。今、この場所では、老朽化した特殊堤を取り替える整備が行われようとしている。御倉護岸と一体となった名所づくりの発想が求められる。

（伊藤 登）



○油島千本松原：
揖斐川・長良川（岐阜県）

「荒川流域を歩く会」を開催

人々の暮らしに密接な関係にあった歴史的な水防施設や史跡、そして「水林自然林」に代表される、自然と人々との営みのなかで育まれた水防林に親しもう。

そんな主旨で、9月26日「歩く会」が「マスターズクラブ」との共催で実施されました。前日の天気予報では、悪天候が予想されましたが、幸いにも好天に恵まれ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。コースは荒川左岸の吾妻運動公園駐車場より左岸の散策路を通り地蔵原堰堤を経由し、荒川資料室までの4km余りの道のりで、3時間ほどかけて歩きました。途中の河畔林では、珍しい草花や樹木の話に話が弾み、時折聞こえる小鳥のさえずりに安らぎを感じる事が出来ました。そして、地蔵原堰堤では、多くの参加者が裸足になって川の中を対岸まで渡りました。年輩者が多かったせいか、ロープを準備するなど安全面にも配慮し、無事渡り終えましたが、「楽しい」という歓声もあがっていました。休憩後、荒川資料室までのコースを間違え、県畜産試験場の場内を通行させていただくハプニングがありましたが予定通り、お昼頃には荒川資料室に到着しました。荒川資料室では、参加者と案内役の大波会長他との意見交換が行われ、和やかなムードの中で散会となりました。



紅葉の季節も終わり赤や黄色の葉が落ちて、晩秋から初冬へとかけ足で季節も変わり、シベリアの方からはるばる日本へ渡ってきた冬鳥と言われるツグミ、カシラダカ、ジョウビタキ、ベニマシコ等の観察をするのにも良いシーズンとなってきました。いまさら言うまでもないことですが、荒川の河畔林は昔から水防林として大切にされてきたために自然林としての景観もすばらしく、したがって鳥類にとってもまたとない生活の場所となっています。木の葉が落ちたこれからの季節は鳥の姿もよく見えるし、少し寒いのを我慢すれば鳥の観察には一番良い季節と言えます。これらの冬鳥たちも渡ってきた当初は何となく落ち着けない様子でしたが、だいたい落ち着ける場所もそれぞれ決まってきたようですから、暖かい日などには水林や吾妻運動公園に隣接する自然林等は絶好の観察場所となります。

また、これらの林には留鳥（とめどり）のアオゲラ、シジウカラ、ヤマガラ等も見られますから、8倍程度の双眼鏡を持っていればさらに楽しくなることでしょう。ヤマガラは、エゴノキの実が好物なので、この木を見つけたら20mくらい離れて静かにしていると、入れ替わりにやってくると思います。暖かで良い場所を見つけたら、腰を下ろして「じいっ」としているのが一番良いウォッチングです。鳥の方で動いてきてくれますから、この季節には思わぬ鳥に出会えるチャンスでもあります。歩く時は小幅で静かにゆっくり歩き鳥たちを驚かせないことがバードウォッチャーとして一番大切なルールと言えます。暖かな日には、ぜひ荒川の河畔林に出かけてみてください。

（大浪 文太郎）

あらかわの小鳥たち

その1：水林にすむ小鳥